明治期～第一次大戦期における愛知県織物業の展開

１．1887(明治 20)年から 1914(大正８)年までの、名古屋市、中島郡、知多郡及びこれらを含む尾張部全部、三河部並びに愛知県全部の織物生産額の推移を下のグラフに示す。

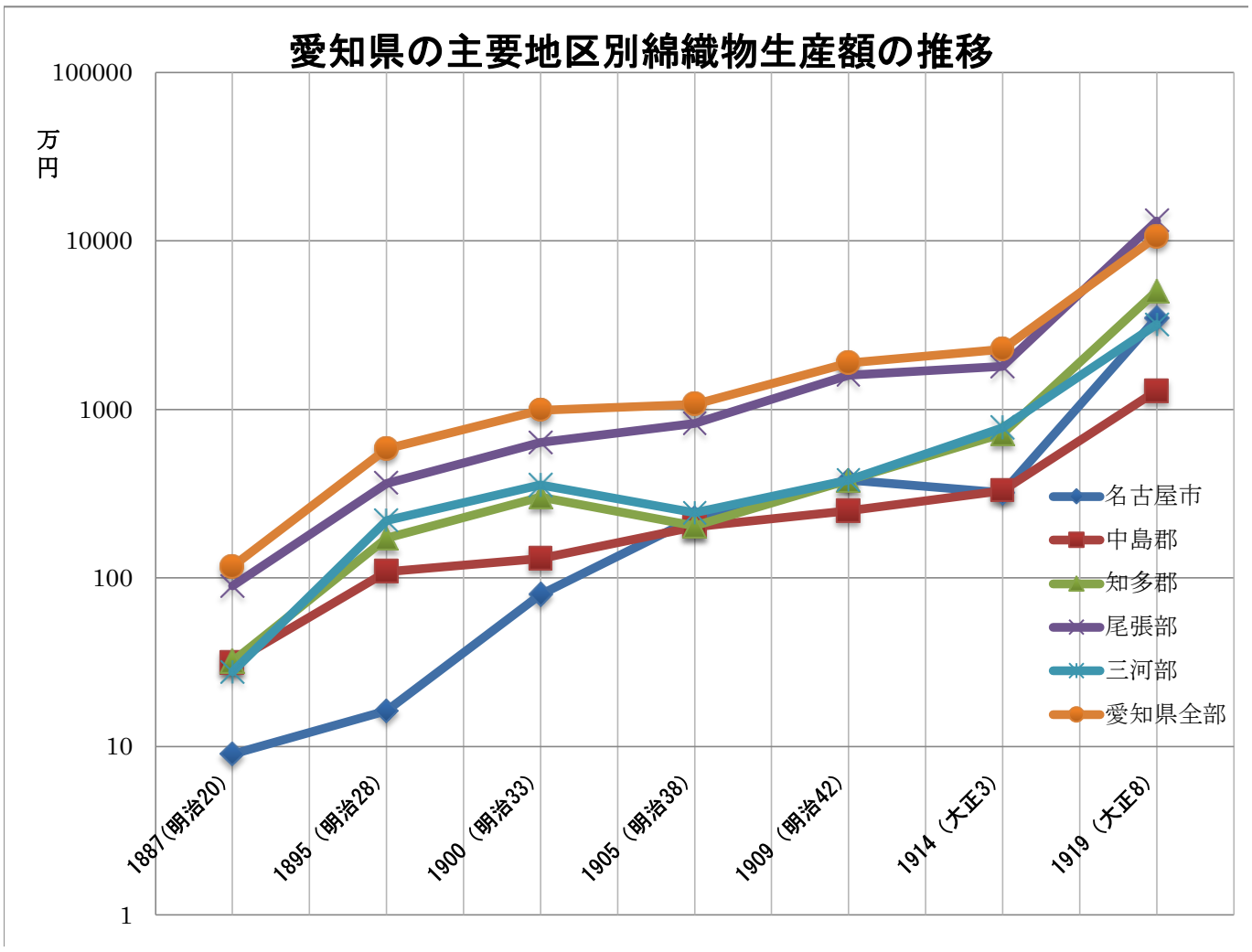
２．この間の伸び率は 139 倍、又第１次世界大戦期を含む 1914 年～1919 年までの伸び率は 7.17 倍である。

３．1919 年における各地区のシェアは次の通り

（ア）　名古屋市 21.3%、中島郡 7.9%、知多郡 30.8%、尾張部全部 80.4%、三河部 19.6%

４．1919 年における各地区の白木綿、縞木綿その他の生産額と割合に次表の通り。

種類／地区	白木綿		縞木綿		その他		総計
	生産額	%	生産額	%	生産額	%	
	万円		万円		万円		万円
名古屋市	2,537	73.0	31	0.9	912	26.2	3,480
中島郡	308	23.9	494	38.3	485	37.7	1,287
知多郡	5,024	100.0	―		―		5,024
尾張部計	10,095	77.0	887	6.7	2,141	16.3	13,123
三河部	2,304	72.1	593	18.5	297	9.3	3,194
愛知県全部	12,399	76.0	1,480	9.0	2,438	15.0	16,317



豊田式木製人力織機
豊田佐吉が 1891（明治 24）年に初めて発明特許を得た木製人力織機
トヨタ産業技術記念館（名古屋市西区則武新町）にて 2015.7.12 撮影